

なつあよ

2015 秋
AUTUMN

奈良教育大学イメージキャラクター
「なっせよん」

奈良教育大学 広報誌

NARAYAMA

NARA UNIVERSITY OF EDUCATION'S
SEASONAL PUBLICATION

<題字>名誉教授 池田 桂鳳

クローズアップ

新反応で分子をつくる

理科教育講座

山崎祥子教授

ラボ・レター

歴史学

西田慎研究室

新学長

前学長

特集

加藤新学長就任記念対談

奈良県教育委員会と奈良教育大学の
これまでとこれから

ならやま

奈良教育大学 広報誌

NARAYAMA

NARA UNIVERSITY OF EDUCATION'S SEASONAL PUBLICATION

<題字>名譽教授 池田 桂鳳



CONTENTS



- 2 特集
加藤新学長就任記念対談
奈良県教育委員会と
奈良教育大学の
これまでとこれから
- 6 クローズアップ
新反応で分子をつくる
理科教育講座 山崎祥子教授
- 9 ラボ・レター
歴史学 西田慎研究室
- 10 ひと・あれ・これ
奈良市立大宮小学校に勤務する池見繁さん
- 11 キラリ☆奈教生
新理数プログラムに参加しSST(スーパー・サイエンス・ティーチャー)に
認定された濱崎千華さん
- 12 フカツ魂!
地歌箏曲部
- 12 活躍する奈教生
- 13 キャンパスニュース
- 14 奈良に息づく仲間たち
- 15 奈教生に聞きました!
自慢できること



表紙のはなし

新学長・前学長のツーショット

9月30日をもって、6年間、学長として大学のために尽力された長友恒人前学長が退任され、翌10月1日に加藤久雄新学長が就任されました。

表紙の写真は、お二人が交代された直後に学長室で撮影したものです。長友前学長が築き上げて来られた奈良教育大学を、加藤新学長が継承・発展させ、更なる飛躍を遂げることが期待されます。



特集

対談

加藤新学長就任記念

奈良県教育委員会と
奈良教育大学の
これまでとこれから



吉田 育弘
奈良県教育委員会教育長

よしだ やすひろ 県立高校教諭、奈良県教育委員会事務局教育次長、同理事などを経て、平成26年4月に奈良県教育委員会教育長に就任し、今年度は新教育委員会制度のもとで教育長として知事より任命された。専門は数学。



加藤 久雄
奈良教育大学長

かとう ひさお 奈良教育大学教授、奈良教育大学副学長（国際交流・地域連携担当）などを経て、平成27年10月に奈良教育大学長に就任。専門は日本語学、文法教育、語彙教育。

加藤 10月1日より学長に就任しました加藤です。よろしくお願いします。

吉田 県教育委員会教育長の吉田です。よろしくお願いします。

奈良県教育委員会と 奈良教育大学との連携について

加藤 最近、奈良教育大学は県教育委員会との連携を強めさせていた

だいていますね。

吉田 そうですね。私も長く県教育委員会にいますが、もともと、教育大と県教育委員会との関係は、年度末に1回顔を合わせて連携協議会という会議を開催するだけでした。専門部会をつくり、さまざまな分野でもっと実質的な連携を深めていこうと、数年前に私から提案させていただきました。

加藤 平成26年度には英語教育部

会、ICT専門部会を立ち上げ、平成27年度には、高大接続部会が設立されました。また、教職大学院や修士課程への派遣研修についても、昨年度より新たに申し合わせを結ぶことができました。さまざまな分野で県教育委員会のお役に立つことができているのであれば幸いです。今日は、専門部会や教員研修での連携について、教育長のお考えを伺うことができればと思っています。



高大接続部会について

加藤 高大接続部会が今年度より動きだしましたね。高校生のキャリア教育や国の大学入試改革の動きに合わせて、さらにつながっていくことができると考えています。県教育委員会はどのようにお考えでしょうか。

吉田 現在、県教育委員会では、高校生のキャリア教育の一環として、教員になりたい県立高校の生徒を対象に、2年生から3年生にかけて高校生版の教職プログラムを実施できないかと考えています。県内には平城高校、高田高校と2つの教育コースがありますが、この2校だけでなく、教員を志望する県立高校の生徒をもっと広く集めてプログラムを行い、教育大にはプログラムを受講した生徒に対して推薦入試を実施してもらうという形ができればと考えているところです。

加藤 既に県教育委員会の高校生版教職プログラムは動いているのですか？

吉田 これから計画して行こうという段階です。

小学校英語について

加藤 小学校英語教育連携事業も進めていますよね。教職大学院の先生が小学校と中学校の英語教育の連携や、実践的な小学校英語の授業方法なども指導すると聞いています。

吉田 小学校の外国語活動ができる現職教員を育成する必要があったので、研修のあり方とか、指導のあ



り方を指導してもらうために、専門部会が設置されました。2020年には小学校英語が教科化される方向性が示されてます。さらに教員が力をつけることができるよう、英語指導パワーアップ講座を開いてもらって、教育大の先生に指導してもらっています。昨年度からの実施で、昨年度は、希望する小学校教員に対して教育大で研修をしていただきました。今年度は、教科化に向けてその地域のリーダーとなる教員を育成しようという目的で、各市町村あるいは郡単位で、地域を代表して研修してもらうという形をとっています。

ICTについて

吉田 ICT（※情報通信技術、『ならやま2015年夏号』参照）の連携も進んでいます。

加藤 お役に立っていますか。

吉田 立っています。今後もさらに、県立教育研究所（※奈良県が設置する教育に関する研究や教員研修を行う機関）との連携を進めていただきたいと思います。教育研究所というのは研究機関だから、大学に対して一番の窓口になるべきだというのが僕の考え方です。これまで、学校教育課の指導主事を中心に、教育大の先生と、個人同士で結び付いていましたよね。最近は、教育大と教育研





で授業をしながら、大学院へ通って
いました。1年目は代替教員が入る
のでいいのですが、2年目になると、
その教員は週5日のうち4日は勤務
扱いになり代替教員が入らず、学校
現場にとってはあまりよい状況では
ありませんでした。新しい制度では、
2年目も学校に代替教員が入ること
になるわけです。おまけに、研修中
の教員は毎週1回学校現場に戻って、
研修成果を還元してくれるという好
循環を生むわけです。

加藤 現職教員にとっても教職大学
院の研修に出やすい環境ですよ。

吉田 そのとおりです。そして、大
学院での研究成果を勤務校ですぐに
生かすことができます。県教育委員
会は、教員の長期研修を全て大学
院研修につき込むぐらいの勢いで、
派遣者数を増やしにかかっています。
教職大学院に派遣する目的というの
は、教職大学院はミドルリーダー(※
若手教員の育成や学校運営に参画
する中堅教員)の養成ということをよ
く言われていますが、私は、ミドル
リーダーになるためには、まず、生
徒理解や子どもにとっていい授業が
しっかりできなければならないと考
えています。研修する教員には、そ
のような力をぜひつけてもらいた
いですね。教職大学院で学びたいと
いう現職教員のニーズはどこにある
のかと、研修に関するアンケートを
とりましたが、やはり教科の力をつ
けたいという声が多くありました。

加藤 それは子どもたちにとって面
白い授業ができる力ですね。

吉田 そう。面白い授業。

加藤 子どもたちがその先生の授業
を受けて、先生の授業は面白いって。

研究所が組織として結びついてきてい
ます。今後さらに、どう組織的に結
びついていくことができるか、奈良
県の教員のICT活用力が低いという
問題をどのように解決していくかが
課題です。

加藤 大学教員と指導主事が個人
単位で、こんな研修会に講師として
来てくださいよというつながりから、
今のような形の専門部会で、組織的
なつながりへ発展していっている
ように連携が強化されていると
いうことですね。

吉田 そのとおりです。これまでの
個人的な結びつきとはかなり変わっ
ており、深くつながってもらっています。

加藤 この連携を大切にしていかな

いといたしませんね。

教員研修について

加藤 教職大学院との連携も進ん
でいますね。教職大学院を現職教
員の研修の場として活用していただ
いています。昨年度に県と申し合わ
せを結んで、今年度入学者から大
学院の2年目の学費は免除させてい
ただくこととなりました。

吉田 そうですね。また、派遣され
た教員は、1年目は教職大学院で学
び、2年目は、週4日は教育研究所
の研修にあてて、週1日必ずある曜
日に勤務校へ出る制度に変えました。
従来の制度では、2年目は、勤務校



吉田 楽しかったと印象に残るような授業ですね。

加藤 それができる力ですよ。教職大学院で面白い授業ができる力をつけてもらいたいですね。

奈良教育大学に期待すること

加藤 うちはずっとESD(※持続可能な開発のための教育、『ならやま2015年春号』参照)をやってきて、たまたま私なんかも副学長として走らせてもらったら、あまり他がやっていないものだから割と評価されました。ただ、ESDを一生懸命やっているけれども、私がいつも言うのは、教科あつてのESDですよ。これが奈良教の前面に出てくることがあってはならない。教員としては、まず教科の力を付け、その後にESDというのが理想だと考えています。国語もできるけれども、ESD、総合的な学習の時間も他の先生よりやれる。よりよい教員になるためには2つ以上の強みを持ってよ。いい先生になるつもりがなければ奈良教の学生ではない、というぐらいに考えています。

吉田 奈良県の教育において、教育大の学生は教員として一番中核に育てていてもらいたいと思いますし、教育大の学生が他大学の学生から、

指導力がないと言われるようなことはあってはならないと思います。

加藤 教科の力ですね。

吉田 教科の力は必須ですよ。

加藤 でも弱いと感じる部分もあります。むしろ教員養成系ではない大学で教員免許を取っている学生の魅力をひひしと感じることがあります。

吉田 教科の力など教員としての力量をつけさせるのに、奈良県の教員になりたいという優秀な人材をまず確保していただいたらいいのではないのでしょうか。冒頭でお話した、高大接続となる教職プログラムを実現し、教員になりたい奈良県内の高校生を教育大で養成してもらえたらと考えています。

加藤 うちの大学の入学者はだいたい30%弱が奈良県の学生ですけれども、30%弱は大阪府ですよ。他には京都府や兵庫県の他に、おかげさまで全国からも来ますが、もっと奈良県の子どもたちが土台に入っていないてはいけませんよ。

最近、アクティブラーニングと盛んに言われていますが、能動的な課題解決型の学びが本当の学びだと私は思っていますので、受験勉強が悪いとは言わないけど、そこであくせくしてしまうならば、そこを解放してあげたいですね。

吉田 高校1年生、2年生で頑張っている成績優秀な子で奈良県の教員を本気で目指す生徒を教育大が取られたら、受験勉強とかあくせくしなくてもいいし、大学に行って一般教養を学んで、大学院まで6年行って、いい教員になっていくのではないかと思います。

加藤 大学としても、クラスメート

にそういう推薦入学の子がいたり、帰国子女がいたり、多様性のあるクラスメートがいるという学年はいいですよ。

吉田 そうですね。それに、入試はたぶん変わっていくでしょうから、やはり意欲面を中心とした評価にだんだん変わっていった方がいいと思いますね。

加藤 最後に奈良教育大学、これから本当に頑張らなければならないと考えています。学長に就任する前に、副学長として地域連携を担当していたことは本当によかったなと思っています。いろいろな学校に行かせてもらって、お恥ずかしい話だけど、最初は学校に行くと、どこのおちゃんが来たか分からないのに、子どもたちは廊下ですれ違つと、こんにちはと言ってくれますよね。そのこんにちはに、こんにちはと応えるのがなんか照れくさくて、できなかったんですよ。この間も平城高校の授業で、昨年度に続いて今年度も話をさせてもらったんです。大学に勤めていると本当に見に行かないですよ、小学校も中学校も。

大学が本当に変わっていかねばいけない。地域の教育ということに地域連携させてもらって、地域の教育を支えていく。奈良教さんがなくなったら地域の教育、地域づくりが困りますねと、皆さんに言ってもらえるような大学を目指していきたいと思います。

本日はお忙しいところありがとうございました。

吉田 こちらこそありがとうございました。今後ともよろしく願います。



クローズアップ

本学教員の研究を詳しく紹介

新反応で分子をつくる

はじめに

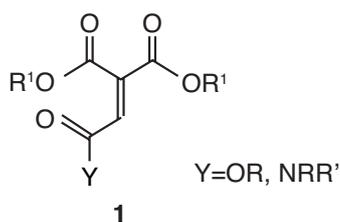
私の研究室では、有機化学の教科書で学ぶことを基礎として、新しい有機合成反応の開発を目指しています。私たちの身近にある医薬品の多くやプラスチックなどは、有機合成によりつくられています。そのため、有機合成反応の研究をすることは、今まで合成が不可能だった医薬品を作ることが可能にしたり、現状よりコストや時間の少ない、また環境にやさしい製法の発見につながります。

最近の研究について紹介します。新反応の開発のために、反応性を高める部位(カルボニル基、C=O)を炭素-炭素二重結合に3つ導入した物質(エントリカルボン酸誘導体 **1**, 図1(以下有機化学の慣例で構造式は炭素と水素を省略しています、Rはアルキル基の略号です)および、図2(その最も単純なトリエステルの3Dモデル)を、利用しています。

この分子は、単独でも反応性が十分高いですが、触媒を用いることにより、より反応性が高くなります。従来、カルボニル基を炭素-

炭素二重結合に2つ導入した物質が、有機合成では有用に利用されていましたが、3つ導入することにより、反応性がさらに向上し、これまであまり進行しなかった反応も進行することがわかり、種々の薬などに有用なヘテロ環(2種類以上の原子を含む環状化合物、ここでは主に酸素や窒素と炭素を含む)や炭素環の骨格等を合成することに成功しています(図3)。

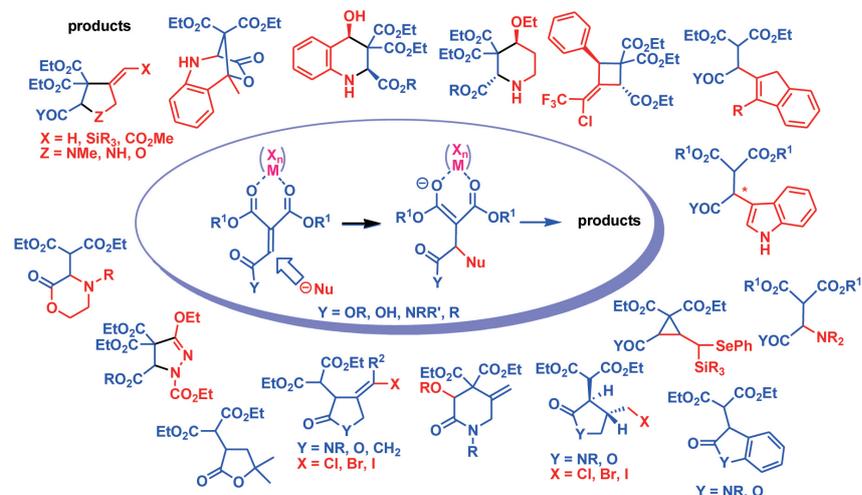
以下、研究の1例をあげて説明します。



(図1) エントリカルボン酸誘導体

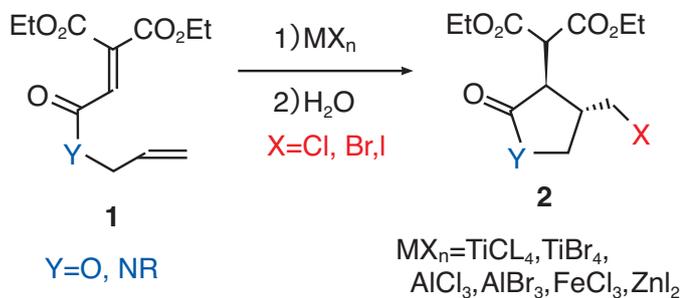


(図2) 3Dプリンターで作成したエントリカルボン酸トリメチル

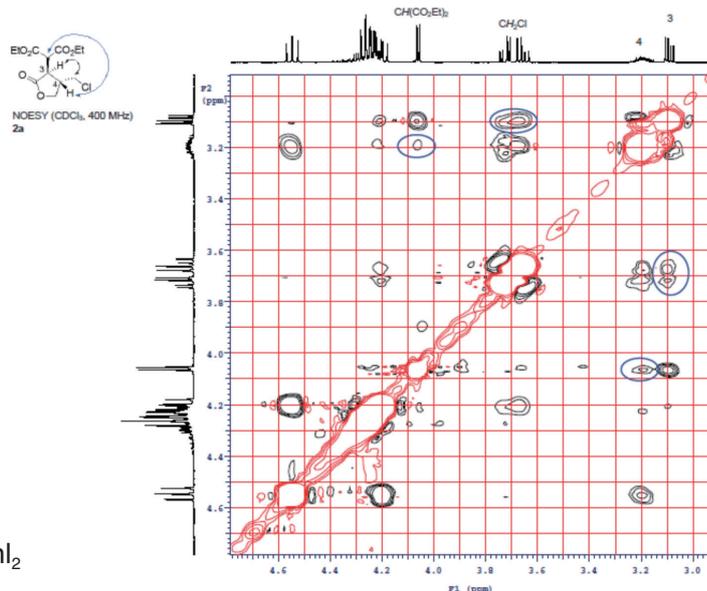


(図3) エントリカルボン酸誘導体を用いた反応で合成した種々のヘテロ環および炭素環化合物





(図4) アルケニルエステル、アミド誘導体のハロゲン付加的環化反応



(図5) 2次元 NMR(核磁気共鳴) NOESY スペクトル

私たちは、図4に示した新しい反応を開発しました¹。1970年代の Snider、Roush らによる先行研究²では、特定の物質に限られ、また当時の機器分析の技術では立体的な構造がわかりませんでした。生成物 **2** の立体的な構造は、NOE (核オーバーハウザー効果) から推測されます (図5)。その結果、立体的な構造は、シス型ではなくトランス型であることが予測されます。また図4の反応は、シス型ではなくトランス型で選択的に進行し、一般性が高いことがわかりました。

また、生成物 **2** がシス型ではなくトランス型が得られることなどを説明するため、反応機構を計算化学を用いて考察しています (図6)。

最近、本反応は少量の触媒を使うことによっても反応が進行することがわかってきています。

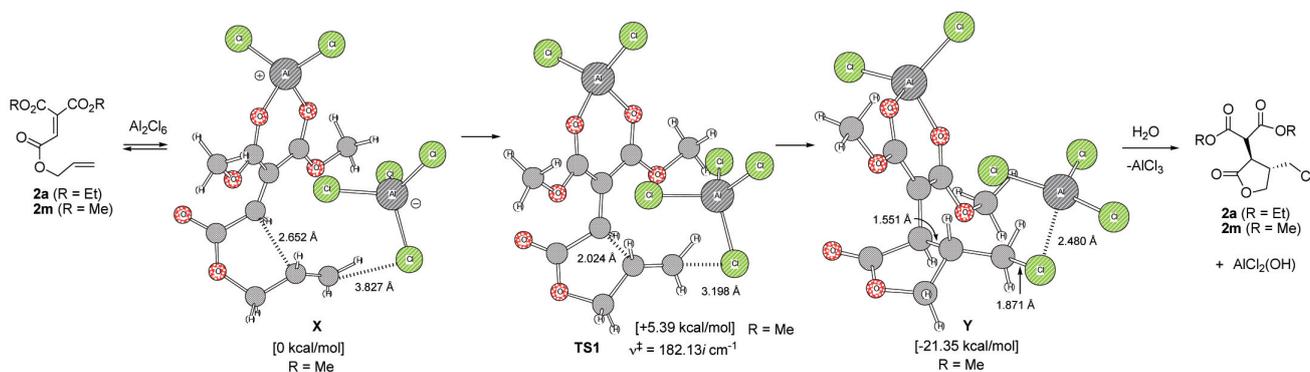
以上、高い反応性をもつエントリカルボン酸誘導体を利用した効率的な反応による有用物質の合成を行ってきました。エントリカルボン酸誘導体の高い反応性、容易に多様な物質が合成できる、複数の反応部位をもつなど特徴を利用し、さらに新規の効率的な反

応が開発できると考えています。

研究設備

ロータリーエバポレーター (図7) は、有機溶媒を除去するために用いる蒸留装置です。真空度はモニターで確認でき、調節も可能です。ドラフトチャンバー (ドラフト) 内は常に排気されており、試薬類を安全に取り扱うことができます。通常の有機合成反応、悪臭や毒性のある試薬の取扱はドラフト内で行います。

核磁気共鳴装置 (NMR) (400MHz) (図8) は、化合物の構造決定に



(図6) アリルエステルの環化の予想反応機構とモデル化合物の密度汎関数による最適化構造 (B3LYP/6-31G*).



(図7) ロータリーエバポレーター

において、中心的な役割を果たしています。他にも赤外分光光度計 (IR)、旋光計、高速液体クロマトグラフィーなど研究に必要な設備は整っており、これらの機器を使って研究に励んでいます。

終わりに

研究の目標は、入手容易な物質から短工程で有用物質を合成する、環境負荷の少ない合成反応の開発や枯渇性資源に頼らない原料を用いるなど、将来の持続可能な社会を考えて、研究を行っています。

しかし、とにかく新しい、今までできなかった、誰もやっていなかった反応を見つけるということは、科学者として楽しいことです。特に、将来の社会を生きていく子どもたちや若い世代の教育を担っていく本学の学生さんたちに、この楽しみを味わって、伝えていきたいと考えています。

本研究を遂行するにあたって、ご協力頂いた先生方及び学生諸氏に感謝致します。



(図8) 核磁気共鳴装置(NMR)

プロフィール

理科教育講座

教授 やまざき しょうこ 山崎 祥子



専門は、有機合成化学。

大阪大学大学院理学研究科博士後期課程退学、理学博士。

奈良教育大学教育学部助手、文部省在外研究員 (スタンフォード大学)、

奈良教育大学教育学部助教授、2001年より現職。

参考文献

- ¹ S. Yamazaki, K. Fujinami, Y. Maitoko, K. Ueda, K. Kakiuchi, *J. Org. Chem.*, **78**, 8405 (2013).
- ² B. B. Snider, D. M. Roush, *J. Org. Chem.*, **44**, 4229 (1979).





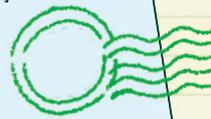
ラボ・レター

— 学生による研究室紹介 —

学校教育教員養成課程 教科教育専攻
社会科教育専修

歴史学

にしだ まこと
西田 慎研究室



教育学部 学校教育教員養成課程
教科教育専攻 社会科教育専修
3回生

かくほ さとこ
角保 智子さん

From 広島県立呉三津田高等学校出身



西田研究室の紹介

社会科教育専修の学生は、2回生の後期の最後に所属する研究室を決めます。社会科には、日本史、西洋史、地理、経済などの専門的な研究室だけでなく、社会科教育に特化した研究室など幅広い分野の研究室が用意されています。西田研究室は、「西洋史ゼミ」という名目ですが、基本的には東洋史なども含め、日本史以外のすべての世界史を研究することができます。比較的新しい研究室ですが、今年度より徐々に所属人数は増えています。

幅広い研究分野

先ほども述べたように、西田研究室のいちばんの特徴は、広範囲におよぶ研究のテーマを選択できることにあります。西田慎先生は、ドイツの大学で勉学に励まれ、その専門分野もドイツ現代史やドイツ政治史ではありますが、研究室にはドイツに限らずたくさんの国や地方に関する文献が用意されています。そのため、所属する学生の希望する研究テーマもフランス史であったり、ある特定の地方のジェンダー史であったり多岐に及びます。ゼミでの活動は、毎週1コマでまずはドイツの文化史について書かれた著書をひとつずつ全員で読み進めていくところから始まります。順番に学生がひとりずつ担当する著書の範囲をレジュメにまとめてきて、先生も交えて読解していきます。なかなか難しい表現もありますが、そこは自分たちで調べたり、先生に解説していただいたりしながらそれぞれの理解を深めています。ちなみに私は、高校のときに日本史と倫理、政治経済を中心に学習し、大学を受験したため、世界史の知識は世界史Bを学習した人には及びませんが、ドイツの歴史を研究したかったため、この研究室を選択するに至りました。基礎的な事項から勉強しなおすことも、よい刺激となっています。みなさんもぜひ、研究室を選ぶ際には高校までに選択していた分野にとらわれずに、自分のやりたい研究テーマを支援してくれるゼミを見つけることをおすすめします。

学生同士の交流

西田研究室は、そのゼミの特徴から、学生のうちに留学をしてさまざまな経験を積んでいる人が数多くいます。たまに開かれる院生も含めた交流会では、それぞれが経験した外国での出来事をよく共有しています。ある国の生活環境や、日常的なマナーなど、自分の研究に関係のなさそうな国の話でも興味を持って聞くことができます。大学生は、高校生までとはちがいで、夏期休業や春期休業の期間が長く設けられています。その期間を、部活につき込むかあるいはほかの自分の時間として費やすかは自由ですが、大学生のうちにはかできない経験をするということも、私の研究室の友人は、丸ごと1カ月使ってヨーロッパへ単身旅行に行きました。かなり勇気がないとできない決断ですが、彼女の様子を見てみると、その決断がかなり有意義な毎日につながっていることがよくわかります。このように、多方面からさまざまな国や地域の情報を収集できることも、この西田研究室の大きな特徴だということができます。

卒業論文に関するコメント

この研究室では、3回生前期の最後に卒業論文を執筆するまでの方法から詳しく学びます。論文制作のために、4回生になるまでにたくさんの書物を読んでおくことをおすすめします。いきなり難解なものを読み取らなくても、自分の興味のある範囲から徐々に読んでいくだけでも論文の糧には必ずです。

卒業論文テーマとその要旨

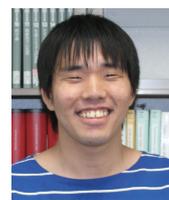
「ナチスによる大量虐殺とその背景」

戦時中にナチスによって引き起こされたユダヤ人やマイノリティの人々の大量虐殺について、その背景を当時の史実をたよりに研究していきます。

Student's Voice

ドイツにおける移民のナショナリズム形成

現在、ドイツは総人口の約2割を「移民の背景を有する人々」が占めていると言われています。ドイツで生まれ、ドイツ語を母語としながらもまだ見ぬ自分のルーツに複雑な感情を抱く移民たちのナショナリズムがどのように形成されていったのか、現代にも続く課題を研究していきたいと考えています。



大学院 修士課程
教科教育専攻
社会科教育専修 1回生
にかいどう たいき
二階堂 泰樹さん



「学生時代の出会いと学び」

私は現在、奈良市立大宮小学校に勤務しています。この春、7年間お世話になった、奈良市立都跡小学校から転勤し、新たな職場で仕事をしています。

同じ奈良市内の小学校でも学校によって様々な違いがあり、戸惑うことも多々ありますが、これまでの経験を活かしながら、新たな気持ちで子どもたちとともに毎日楽しく充実した日々を送っています。

私は教師として大切にしていることが二つあります。

一つは、「自分自身が学ぶ」ことです。子どもたちは学校でたくさんのことを学習します。その子どもたちと最も長く共有する時間は授業です。教員としてその時間をいかに有意義なものにするかが重要であると感じています。私が大学院時代に教わった田淵五十生先生がおっしゃっていた中に印象に残っている言葉があります。それは「難しいことを分かり易く。分かり易いことをおもしろく。」という言葉です。田淵先生の授業にはいつも楽しく笑顔がありました。また大学時代に教わった竹田有先生も、私が初めて学んだ西洋史の内容をいつもおもしろく、知的好奇心を刺激するように話してくださいました。その楽しい、おもしろい雰囲気の中で私はたくさんのおもしろいことを吸収できたのだと思います。

子どもたちも毎日新たなことを学習しています。その中身を分かり易く、おもしろく伝えるためには、教師自身の学びが必要だと考えています。実際に学んだことをすべて伝えるわけではなくとも、そういった姿勢が日々の授業に生かされるのだと感じています。

もう一つは、「自分の好きなことをもつ」ことです。私は体を動かすことが大好きで、大学の4年間ソフトボール部に所属していました。はじめから入ろうと決めたわけではなく、たまたま誘われておもしろそうだったことがきっかけです。実際にやってみてそのおもしろさにのめり込み、2年生ではキャプテンをさせていただきました。試合に勝って楽しかったことや、チームがまとまらず苦しかったことなどから、多くのことを学ばせていただきました。そして今でもソフトボールを続けています。休日に思いっきり体を動かし、心身ともにリフレッシュしてまた新たな気持ちで月曜日から子どもと向き合います。

年度当初、クラスが変わると子どもたちは皆緊張しています。なかなか自分から話すことが苦手な子どももいます。そのようなとき自分の好きなことの話をする、子どもたちはとても興味をもって話を聞いてくれます。

このように、自分自身は、授業や子どもたちとの関係づくりにも、さまざまな課題があると感じる日々ですが、大学・大学院で出会った先生方や多くの仲間との関わりの中で、得たこと、学んだことが今の私を支え、導いてくれているのだと感じています。



奈良市立大宮小学校
教諭 3年1組担任
いけみ しげる
池見 繁さん
(教育学部 学校教育教員養成課程
言語・社会コース 社会科教育履修分野
平成18年3月卒業
大学院 修士課程 教科教育専攻
社会科教育専修 平成20年3月修了)




大学時代のソフトボール部の仲間



富士登山にもチャレンジ



今も続けているソフトボール



職場での様子

キラリ 奈教生



SST認定書授与式



ケンタッキー大学連合との交流



トランプ手品の授業風景

Profile★

プロフィール

教育学部
学校教育教員養成課程
教科教育専攻 数学教育専修

はまざき ちか
濱崎千華 さん

愛媛県立八幡浜高等学校
出身

新理数プログラムに参加しSST（スーパー・サイエンス・ティーチャー）に認定された濱崎千華さん

理数教育研究センターでは、新理数プログラムの一環として、「理科・数学（算数）」に強い教員であるSST（スーパー・サイエンス・ティーチャー）の養成に取り組んでいます。今回はSSTの認定を受けた濱崎千華さんにお話を伺いました。

新理数とは？

新理数プログラムとは、「理科・数学（算数）」に強い教員を養成するプログラムです。これを通して、小中学校で学習支援や授業を行う実地経験だけでなく、研究成果や授業展開を発表するプレゼンテーション経験、学力向上合宿のサポートや国際交流など外部との連携経験を積むことができます。どの活動も、大学の講義だけでは得ることができない貴重な学習の場です。

〈私が新理数で行った主な活動〉

1回生	<ul style="list-style-type: none"> ・ケンタッキー大学連合との交流 ・ウィンタースクール2013
2回生	<ul style="list-style-type: none"> ・郡山市の小学校での学習支援 ・サマースクール2013 ・ウィンタースクール2014 ・GUTS（学力向上合宿）のサポート
3回生	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書研究

新理数に入ったきっかけを教えてください

私が新理数プログラムに入ったきっかけは、1回生の4月に行われた説明会に参加したことです。新理数の先輩方の説明を聞き、小中学生に自分たちで授業をしたり、一緒に活動したりする機会が多くあることを知り、興味を持ちました。

どのような活動を行いましたか？

2回生の夏休みには、曾爾中学校の生徒に「トランプ手品」を用いた授業を行いました。この授業では、トランプ手品を演返し、なぜ成功したのか、その仕組みを考えました。授業をつくる上で苦労したことは、全学年が理解できる内容を考えることです。中学1～3年生を1つの教室に集めて授業を行うので、1年生にも理解でき

る内容で、かつ3年生が退屈しないような展開を考えるのは難しかったです。しかし、本番までに新理数の先生方に模擬授業を見ていただいたり、アドバイスをいただいたりしたおかげで、本番は自信を持って授業をすることができました。生徒が実際に手を動かして試行錯誤しながら楽しそうに考える姿を見ることができて嬉しかったです。

新理数での活動は、授業をつくるだけでなく、国際交流や学力向上合宿のサポートなど様々です。プログラムに組まれている活動以外にも積極的に参加することで自分の知識や経験をどんどん増やすことができます。今年の8月には、きつづ光科学館ふおとんで行われた奈良教育大学特別展でスタッフとして小学生に算数・数学や理科の教具を紹介しました。子どもの自由な発想に触れることができ、私自身も楽しく学ぶことができました。

今後どのように生かしていきたいですか？

新理数の活動を通して学んだことは、子どもとの接し方から授業のつくり方、教科書の生かし方など多くあります。今後は大学生としてではなく教師として教壇に立つので、長い期間生徒と関わる責任を持って今まで以上に努力していきたいと思います。私自身がこれからも数学を学び続け、生徒が数学の魅力を存分に感じられるような授業をつくっていければと考えています。

一緒に頑張った仲間や支えてくださった新理数の先生方、4年間本当にありがとうございました。



きつづ光科学館スタッフとしての活動



ブカツ魂!

奈良教育大学には、文化会所属11団体、体育会所属26団体のクラブがあり、多くの学生が仲間とともに活動しています。ここでは、そんな課外活動を紹介します。今回は、地歌箏曲部です。

文化会

- ギターマンドリンクラブ
- 書芸部
- ウインドアンサンブル
- 地歌箏曲部
- 軽音楽部
- 現代視聴覚文化研究会
- 茶道部
- 奈響ネブ(アカペラ部)
- 合唱団コールグレイス
- 劇団キラキラ座
- (障がい者問題研究会) すぎのこ

体育会

- 合気道部
- 弓道部
- 剣道部
- 男子硬式テニス部
- 女子硬式テニス部
- 硬式野球部
- 男子サッカー部
- 女子サッカー部
- 準硬式野球部
- 少林寺拳法部
- 水泳部
- 創作ダンス部
- 男女ソフトテニス部
- 男子ソフトボール部
- 卓球部
- 男子バスケットボール部
- 女子バスケットボール部
- バドミントン部
- 男子バレーボール部
- 女子バレーボール部
- 男子ハンドボール部
- 女子ハンドボール部
- ラグビー部
- ワンダーフォーゲル部
- 陸上競技部
- 柔道部

[学生団体・クラブ紹介] http://www.nara-edu.ac.jp/campus_life/extracurricular/extracurricular_education/

pick up

地歌箏曲部

部員数 9名

現在の部員は1年生4名、2年生4名、4年生1名の9名。毎週月曜日に講師の菊領先生をお招きして個々のレベルに合わせてお稽古をしています。昨年10月に奈良県三曲協会第27回箏曲尺八定期演奏会招待舞台に出演、今年の4月に春のミニコンサート、7月に夏のミニコンサート with 茶道部を開催しました。2015年11月21日(土)に定期演奏会の開催を予定しています。

心の琴線にふれる演奏を



教育学部 学校教育教員養成課程
教科教育専攻 国語教育専修 2年生
三重県立神戸高校出身
地歌箏曲部 部長
亀井 花野 さん

地歌箏曲部では毎週月曜日に行う講師の先生をお招きしたお稽古を中心に、和気あいあいと楽しく活動しています。総勢9名という少ない人数ではありますが、部員同士仲が良く、アットホームな雰囲気自慢です。お稽古では基礎練習曲から上級の曲まで各々のレベルに合わせて幅広く練習しています。部員の半数以上が初心者から始めますが、1年もたつころには免状の最初の階級である初伝をいただくことができるようになります。

これまでは大学祭で行う定期演奏会が唯一の発表舞台でしたが、今年度からは季節ごとのミニコンサートを教育資料館

で開催しています。ミニコンサートではより多くの方々にお箏の魅力を知っていただきたいとの思いから、格調高い古典曲ではなく親しみやすいハナミズキなどのポップス曲や現代曲を中心に演奏しています。準備や稽古は楽しくも大変ですが、お客様から「お箏がこんなに素敵な音色だと初めて知った!」など多くのうれしい感想をいただき、毎回やりがいを感じています。また、夏のミニコンサートを茶道部の皆さんとコラボ開催するなど、多くの方々のお力添えをいただきながら新しい企画に挑戦しています。

「琴線にふれる」という例えは、人間の心の奥底にある感じやすい心情を琴(箏の元となった古代中国の楽器)の絃になぞらえた言葉であるといわれています。1000年以上前に中国から伝わり長い時を



部員同士とても仲がいいです。



昨年の定期演奏会の様子



夏のミニコンサート終了後



ミニコンサートに向けた練習風景

経て日本の音楽に合わせて発展したお箏。その趣ある美しい音色は、古くから日本人の心の琴線にふれてきたことでしょう。私たちも聞く人の心の琴線にふれる演奏を目指し、部員一同稽古に励みたいと思います。

活躍する奈教生

文化系

- ◆ 第20回全日本高校・大学生書道展 団体賞 大学の部 優秀校3位
大井 英梨奈さん(教育学部4年生)
- ◆ 第20回全日本高校・大学生書道展大賞(かな)
木村 佳史さん(教育学部4年生)
- ◆ 第20回全日本高校・大学生書道展大賞(篆刻)
志田 弥生さん(教育学部3年生)
- ◆ 第20回全日本高校・大学生書道展大賞(かな)



体育系

- 剣道部
千葉 文乃さん(教育学部3年生)
◆ 第53回近畿地区国立大学体育大会 個人戦(女子) 2位
- 卓球部
◆ 第53回近畿地区国立大学体育大会 女子団体戦 2位
- 弓道部
◆ 第53回近畿地区国立大学体育大会 男子団体 3位
女子団体 2位



5月12日



酩酊状態を疑似体験する学生

奈良県警察と連携し、交通安全キャンペーンを実施しました

奈良県 春の交通安全県民運動に合わせて、5月12日に本学職員と学生自治会及び奈良県警察が連携し、交通安全キャンペーンを実施しました。

本学では、学生の交通マナー向上をはかるため、奈良県警察と連携した交通キャンペーンを継続的に実施しており、今回は飲酒運転撲滅や自転車安全運転に焦点を当てた啓発活動を行いました。

会場では、酩酊状態を疑似体験することができるゴーグルをかけたの歩行体験など複数のブースを設け、数十名の学生・教職員が参加しました。

参加者からは、「普段できない体験をすることができた。」「安全運転について考える機会となった。」などの声が聞かれました。

5月16日～29日



募金を呼びかける学生

ネパール地震災害支援の募金活動を実施しました

4月25日にネパールで発生した大地震を受け、ボランティアサポートオフィスに所属する学生が、5月16日から2回にわたって「ネパール地震災害支援の募金活動」を実施しました。

この活動は、自分たちが何かネパールの人たちの助けとなることのできないかを考え、企画から当日の実施に至るまですべて学生主導で取り組んだものです。

2回の募金活動では合計213,901円の募金が寄せられ、長年ネパールでボランティア活動に取り組んでいるNPO法人への贈呈式が5月29日に行われました。

参加した学生は、「多くの人たちが募金に協力してくれたことに感謝している。この募金が少しでもネパールの役に立ってもらえれば。」と話していました。

6月30日



談笑する長友学長と学生

学長と学生との交流イベント「学長と話そう」を開催しました

このイベントは、日頃接する機会の少ない学長と学生が直に意見を交わす機会を設け、学生の声を大学運営に活かすことや、学長を身近に感じてもらうことを目的として、平成25年度より開催しています。

今回は、課外活動団体であるウインドアンサンブルに所属する学生8名が参加し、1時間程度話し合いが行われました。

会場では、学生から地域の幼稚園や施設等で演奏する「楽器ふれあいコンサート」の様子に

ついて、「子どもたちやお年寄りの笑顔がとてうれしく力になる。」との話がありました。また、長友学長の大学生時代はどうだったかという質問に対し、当時のことを思い浮かべながら話す学長と、話を聞いて今の自分たちと重ね合わせ、時代の流れに驚いたり、感動したりする学生の声があり、終始和やかな雰囲気でした。

学長からは「大学生活はとにかく楽しんで、充実したものにして欲しい。」とのメッセージもあり、学生は熱心に学長の声に耳を傾けていました。

7月1日



緊張をほぐす呼吸法などを実践する参加者

教員採用試験出陣式を実施しました

教員採用試験出陣式は試験に挑む学生を激励すると共に、試験当日に向けての注意事項を共有するために毎年実施されており、試験を控えた100名余りが参加しました。

昨年度の教員採用試験に合格し、教員として勤務している卒業生からのビデオレターによるア

ドバイスがあり、実際に採用試験に携わった経験があるアドバイザーによる、採用側から見た受験時の注意事項や、卓球日本代表選手などのメンタルサポートを担当する岡澤祥訓教授による、緊張を解きほぐす呼吸法などがレクチャーされ、参加した学生らは熱心にメモを取っていました。

8月31日



産学官連携の協定書を見せる、左から長友恒人奈良教育大学長、仲川げん奈良市長、山口文洋リクルートマーケティングパートナーズ代表取締役社長

産学官連携による教育改革の取り組みに関する協定締結を行いました

奈良市・奈良市教育委員会と奈良教育大学及び(株)リクルートマーケティングパートナーズの三者において、教育改革に関し、産学官連携による取り組みを進めるための連携協定を締結しました。

この取り組みは、生徒個人が持っているスマートフォンを授業などに活用し、積極的なアクティブ・ラーニングを行うSSS(スーパー・スマート・

スクール)を構築しようとする新たな試みです。

奈良市立一条高等学校を舞台に、企業と本学が生徒の学力向上や進路指導の支援や助言を行い、その成果を教育改革と人材育成のモデルとして発信することを目指しています。

文部科学省で行われた協定書への署名後の記者会見では多数の質問があり、この事業への関心の高さがうかがえます。



附属中学校 6月12日・8月23日

6月 スポーツデイ・夏休み 親子清掃

6月12日にスポーツデイを実施しました。スポーツデイは、奈良市鴻ノ池陸上競技場を会場として、1年生から3年生の全学年生徒が4つの色組に分かれて、それぞれの種目の合計得点を競い合います。今年は、朝から降っていた雨もやみ、それぞれの色別の応援も大いに盛り上がりました。特に、「綱引き」では会場に大声援が響き渡りました。結果、総合優勝は全1組、準優勝は全2組でした。特に今年は、1年男・女走幅跳、1年女子400m、2年男子400m、2年女子200m、3年女子400mや1年女子400mリレー・女子色別対抗リレーな

ど、たくさんの附中レコード(大会新記録)が生まれました。また、夏季休業中の8月23日には、恒例の「親子清掃」が行われました。今年は、保護者142名、生徒142名に教職員を加え、総数300名を超える多数の皆様のご参加をいただきました。当日は、まだまだ厳しい暑さが残る中、皆さん汗だくになりながら、教室、プール、テニスコート、通学路など、校舎内外の清掃活動に熱心に取り組んでくださいました。おかげさまで、校舎内外も大変美しくなり、清々しい気持ちで新学期を迎えることができました。



附属小学校 7月1日



“子どものため”の本質を問う授業づくり

「子どものため」の本質を問う授業づくり、これが今年度の研究主題です。目まぐるしく変化する社会のなかで様々なことが教育現場に求められていますが、何を指して実践することが本当に“子どものため”になるでしょうか。

7月1日、こうした課題意識のもと、「昆虫の育ち方」(4年・理科・指導:石高教諭)の公開授業研究を行いま

した。ねらいは、アゲハチョウの幼虫と成虫の違い(くらしの場・食べ物・口など)が“さなぎ”の時期を経たものであることを理解させることでした。昆虫はくらしの中でもよく目にする生き物ですが、この授業を通して昆虫がどんな生き物であるかを一歩深めることができました。附小理科部は、「生物とは何かを正しくとらえさせること」を目標の一つとしています。

附属幼稚園 7月2日

絵画ワークショップで大胆な絵の具遊び

美術教育講座の狩野宏明准教授と絵画研究室の学生さんが幼稚園の遊戯室で、大がかりな絵画ワークショップをしてくださいました。遊戯室一面に10×7.5メートルの大きな書道用パフォーマンス用紙を敷き詰め、年長児の子どもたちが大胆な絵の具遊びを楽しみました。

手だけでなく、ローラー、スポンジ、霧吹き、ほうき、熊手など普段描画に使うことのない道具を使って体全体を使って描きました。子どもたちは好きな道

具を手に取り、絵の具をたくさんつけて、思い思いに表現します。初めは少し躊躇していた子どもたちも遊び始めるとその面白さに没頭していきます。大きな紙に、自分の描いた線の軌跡を楽しみながら、夢中になって絵の具と戯れました。絵の具で紙の余白がなくなり、上に上にと塗り重ねていくにつれ、体中を絵の具だらけにして遊び、紙の上でツルツル滑ることさえも楽しんでいました。描き終えた子どもたちの絵の具だらけになった顔は、満足げに輝いていました。



奈良に息づく仲間たち



[自然環境教育センター]
<http://www.nara-edu.ac.jp/ECNE/>

自然環境教育センター
准教授 辻野 亮



名は体を表す。その名はバナナムシ!

バナナ色をした虫だからバナナムシである。レモンのような色だけど、黒い模様があるのでよく熟れたバナナのようなだ。近寄って見てみると黄色地に黒い水玉模様のすっとぼけた顔をしている。

この虫は、草叢や木の葉の上で日向ぼっこをしていることが多い。人が近づくとサッと横に這って葉の裏に隠れる。それはもう、写真がとれないほどにサッと隠れてしまう。これは天敵から身を隠すバナナムシの技である。すぐ

に隠れるので捕まえにくいのかと思いきや、けっこう簡単に捕まえることができるから不思議である。

バナナムシは、バナナのなかまではない。こう見えてセミやカメムシの仲間(半翅目)である。セミが樹液を吸うように、バナナムシもストローのような口を植物に刺して雑草の汁を吸って生きている。標準和名ではツマグロオオヨコバイという。黄色い頭・前胸・前翅で、翅の先端(すなわち、ツマ)が黒い、体長13mmくらいの大型ヨコバイである。黄色はチャームポイントだと思ったが、和名には含まれていないようだ。

名前の良く似たツマグロヨコバイが農業害虫として知られているのに対して、ツマグロオオヨコバイはさしたる害はあまり聞かず、むしろ愛嬌をふりまく虫として日々可愛がられている。



奈良教育生に 聞ききました!

vol.15

「自慢できること」

他人に何かを自慢できるのは素晴らしいことですが、なかなか難しいことです。今回協力してくれた皆さんも、改めて自分と向き合う良い機会になったでしょうか。あなたの自慢はなんですか？

仲間

小学校3年生からバレーボールをやっており、そこでたくさんの人と知り合い交流を深めてきました。苦楽を共にした仲間は一生の宝物です。

むくもと ひろき
棕本 大輝さん(社会科教育専修3回生)

頼れる仲間

私には今、たくさんの友達というより、たくさんの「仲間」がいます。同じ部活で、同じ夢を持って共に取り組む「仲間」が私の自慢です。

いそべ なかこ
磯部 孝子さん(保健体育専修3回生)

つながり

家族・先生・友達・先輩・後輩など私を支えてくれる温かい人々。このつながりがこそが私にとっての最大の自慢です。

たかだ ゆりこ
高田 裕美子さん(書道教育専修4回生)

誰からも愛される人

私は男女や年齢を問わず、誰でも楽しく関わることができると思います。大学生活でもっともっと、大切な仲間を増やしていきたいです!

いしだ けんや
石田 健哉さん(教育学専修2回生)

常に笑顔で元気に!

笑顔していると自然と元気になれるので、常に笑顔でいるようにしています!しんどい時も、ポジティブに考えるようにしています!

きむら みほ
木村 美穂さん(教育学専修2回生)

元気に明るく

自分が自慢できるのは、明るい性格です。子どもたちと接する時でも、明るく元気な先生になりたいと思います。

よしおか ひろあつ
吉岡 一朗さん(保健体育専修1回生)

周りの人に恵まれていることです!

専修、部活、バイト先、大学の友達、小中高時代の友達、家族のおかげで今の私があります!

とくおか ありさ
徳岡 有沙さん(書道教育専修2回生)

文武両道

バドミントンと学業の両立をしながら、幼いころからの夢である教師になれるように頑張っています。

まえかわ まほ
前川 真穂さん(保健体育専修2回生)



弊誌に関するご意見・ご感想をお寄せください。
QRコード対応の携帯電話にてアンケートにご回答いただけます。
皆様からのご意見・ご要望をお待ちしております。



なつきよん's
CLUB

広報誌づくりなど、広報活動をお手伝いいただける学生広報スタッフを募集しています。
興味のある方は総務課秘書・広報担当まで、お気軽にお問い合わせください。



国立大学法人
奈良教育大学

奈良教育大学 広報誌「ならやま」

第50号 平成27年10月31日 編集/広報委員会 発行/国立大学法人奈良教育大学

3月・7月・10月各下旬発行

〒630-8528 奈良市高畑町 TEL.0742-27-9104 FAX.0742-27-9141 Email: kikaku-kouhou@nara-edu.ac.jp

※広報誌「ならやま」は大学ホームページからもご覧いただけます。

<http://www.nara-edu.ac.jp/>

■ 大学ホームページでは、わかりやすく迅速に情報を発信しています。ぜひご覧ください
■ Facebookで最新情報発信中! <https://www.facebook.com/NaraUniversityOfEducation>

国立大学法人奈良教育大学 検索